

タウンミーティング議事録

1 日時

令和4年10月22日（土）午前10時00分から11時15分まで

2 場所

オンライン

3 出席者

井崎市長、若林総合政策部次長

4 来場者数

4名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

この9月に大学の地方創生チームで大分県の杵築市に行ってきたのですが、杵築市と比べると流山市はとても開発が進んでいると感じました。

中学3年生の時に東京都から流山市に引っ越してきて、流鉄流山線の沿線の開発が進んだらもっと人が集まると思い、本日のタウンミーティングに参加させていただきました。

A 市長

私も昔は加の自宅から流鉄流山線の流山駅まで自転車で向かい、そこから八重洲のほうに通勤していました。2005年につくばエクスプレスが完成し、秋葉原に直接向かえるアクセスの良さや、値段は高いですが速いということから、多くの流鉄流山線利用者がTXに乗り換えるということがありました。

流山市の区画整理はTXとセットになって計画されたものであり、大きく分けると4か所あります。

URが実施した流山おおたかの森駅周辺の新市街地地区、千葉県が実施した流山セントラルパーク駅周辺の運動公園地区、南流山の少し先の木地区、そして、西平井・鰯ヶ崎地区の区画整理は流山市が担当することとなりました。

私としては、造成費に見合う価格で売れるかどうか、負債が大きくなって流山市の財政を圧迫しないかどうかという懸念もあり、非常に危機感をもって販売にも力を入れてきましたが、西平井はほぼ完成し、たくさんの住宅が建っています。また、鰯ヶ崎のすぐ近くに鰯ヶ崎・思井地区の区画整理がありますが、こちらも順調に進んでいます。

そういった意味では、流鉄沿線の開発というのは進んでいるのですが、基本的な通勤動線は、TXに乗るために流山セントラルパーク駅や南流山駅に徒歩や自転車で向かうといったような、都心に向かうものが多いです。現時点で実施する予定はありませんが、もし、これ以上住宅地開発を行っても、流鉄流山線の利用者増加に結びつくとは考えにくいです。

そこで、今、流山市では、千代田線沿線からだけでなく、全国からお客様にお越しいただけるよう、流山本町のツーリズムの観点からのアピールを行っています。結果、TXの完成により激減した利用者数も、観光・ツーリズムの観点から安定的に伸びてきています。

これからも、都内から足を運んでいただけるようなイベントを展開するとともに、古民家を再生した店舗の中には、都内からわざわざ足を運んで食べに来てくれるカフェもありますので、流山本町の様々なイベント支援などをしっかりと進めていきたいと考えています。

流鉄流山線開業１００周年を記念して７～８年前からビア電車というイベントがあり、ここ数年はコロナで中止していましたが、今月の１５日に３年ぶりに開催しましたが、事前チケットも数日で完売し、多くの方に喜んでいただけました。また、今年の夏休み期間中には、流鉄流山線でスタンプラリーを行い、観光情報センターで景品がもらえるというイベントを行ったのですが、こちらも２５４人の子どもたちが参加してくれて、大変な盛り上がりを見せていました。

このように、様々なイベント、个性的なお店により、少しずつ流鉄流山線の利用者が戻ってきていますので、これからも一層盛り上げていければと思います。

ちなみに、通学の際は流鉄流山線を利用されているのですか？

Q 市民

高校の時は流鉄流山線で幸谷駅まで向かっていたのですが、今は自転車で南流山駅に向かっています。

A 市長

やはり、主要動線はそのようになりますね。

流山市役所は流山駅のすぐ近くにあり、松戸市や千代田線沿線に住んでいる方が通勤に利用するので、市職員による流鉄流山線利用者は年々増えています。

様々なことを総合的に考え、都心から一番近いローカル線として、鉄道ファンだけでなく、多くの方に認知されるよう多様な仕掛けを行っていきたいと思います。

Q 市民

ありがとうございます。知らないことがたくさんあったので、本日参加して本当に良かったと思います。

A 市長

流山本町のイベントは年に何回もあり、随時、広報ながれやまや市の公式LINEにて情報を発信しています。また、新しくなった市のホームページでは、少し下にスクロールしていただくとイベントがわかりやすく表示されています。

皆さま自身もぜひ、流山本町行灯回廊を探索し、新しい発見をしていただければと思います。

Q 市民

今お話にありました流鉄沿線の開発については、観光をメインに据えて開発していくということなのでしょうか。

A 市長

開発と言って良いのか難しいのですが、流山本町は200年前に白みりんを誕生させた街であり、大分少なくなっていますが、古民家や蔵が残っています。

20年前までは、これらの店舗はほとんど閉まっており、貸店舗にするという感覚もありませんでした。そのような中、ある職員がお店として使えるように掃除をして、レストランを誘致したことで、古民家再生プロジェクトが始まりました。

なので、住宅地として開発していくというよりは、おおたかの森のニュータウン的な雰囲気と比べると、タイムスリップしたような、昔の趣を感じることでできる空間を大切にしながらのツーリズムをしていこうという取り組みとなっています。

Q 市民

ありがとうございます。そうすると、今ある魅力的なものに対して、補助金などを投入し再生していくことで、さらに魅力的なものに変え、人を呼び込むという形ですね。魅力的なものが少ないという場所については、何か新しく仕掛けたりはしないのでしょうか。

A 市長

先祖代々住んでいるという方も多く、売りに出されている土地が多いとい

うわけではないので、まとめて開発というのは非常に難しいと思います。流山には細い道も多くあるのですが、そういったものも趣の一つとして大切にしながらツーリズム資源にしていきたいと思います。

新しい取り組みの一つとして、多くの方のご寄附や企業版ふるさと納税、国の補助金を利用して、白みりんミュージアムというものを2年後にオープンできるように準備を進めております。ただ、大きな施設を作って観光客を呼ぶというよりも、200年にわたって形成された江戸川付近の市街地を、雰囲気そのままに、特殊な空間としてツーリズムに取り込みたいと考えています。

Q 市民

6年ほど前に長男が小学校に入学するタイミングでおおたかの森に転入してきました。その際にいくつか候補地があったのですが、おおたかの森の住環境の良さや、すれ違う人の雰囲気に近いなと感じたことが転入の決め手でした。そのような中、転入6年目を迎え、ごみのポイ捨てと路上駐車が増えてきたなと感じます。

自宅前の路上や、小学校の前に駐車していることもあり、警察に相談したりもしているのですが、たちごっこです。ごみの問題についてもそうなのですが、その人自身のモラルの問題なので解決は難しいだろうなと思う反面、住環境に魅力を感じて転入してきたので、子どもたちの世代のことも考えて、何かできることはないのかと考えています。

人口が増えてきた他の自治体の取り組み事例などもあればお聞きしたいです。

A 市長

たばこの吸い殻のポイ捨てなどもあるかもしれませんが、ごみのポイ捨てや路上駐車は、どのエリアが多いのか教えていただけますでしょうか。

Q 市民

小山小学校近くです。おおたかの森北1丁目付近の話となるのですが、毎朝、十太夫近隣公園を走っているのですが、ここ2～3年ごみが目立ってきたなと感じると、おおたかの森駅前の公園では、コンビニで買ったペットボトルやお弁当のごみが目立ってきているなと思います。

路上駐車については、柏からC O T O Eに向かう道路でトラックが止まっていることが多いです。

A 市長

ありがとうございます。おおたかの森北にある近隣公園周辺や都市軸道路のあたりですね。

流山市では、「流山市路上喫煙の防止及びまちをきれいにする条例」に基づき、警察のO Bの方などにも協力いただきパトロールを行っています。

路上駐車につきましては、流山市からも警察にパトロールをしていただけるように手配したいと思いますが、路上駐車は現行犯でないと対処できないということもありますので、お気づきの際には警察に連絡していただけるとありがたいです。

ごみの件につきましては、いろいろな箇所から要望が上がってきているのですが、近隣公園周辺や近隣公園の中についても、重点的にパトロールしていただくようお願いしていきたいと思っています。

20年前の流山市は雑木林も多く、みどりが多いからと引っ越して来られる方が多かったのですが、住んでみると至る所に不法投棄や痴漢注意の看板が立っているという状況でした。

それをできるだけ、野鳥観察や自然観察ができるような、「管理されたみどり」にしていこうということで様々な取り組みを行ってきた結果、20年前と比べて大分改善されてきたと思います。しかしながら、人通りが増えると放置ごみも増え、それを放置するとどんどん不法投棄されやすい環境となってしまうので、きれいなうちに、皆さまへの声掛けやご協力をお願いしていきたいと考えています。

事前のご質問の中では、犬のふんに関することも記載されていたと思うのですが、そちらはいかがでしょうか。

Q 市民

最近はペットを飼ってきている方が増えているので、ふんの問題も多くなっていると感じます。

A 市長

流山市ではこのような「～禁止」というような言葉ではなく、その方の良

心に訴えかける表現の看板も用意していますので、環境政策課までご相談いただければお渡しや、指定場所に貼りに伺いますのでご連絡いただければ幸いです。



Q 市民

前ヶ崎に実家があり、集会所の建て替えに携わらせていただいたことで地域の活動に興味を持ち、引っ越した先でも色々と地域活動を行い、今はおおたかの森に住んでいます。

おおたかの森はとても良好な環境で、Wikipediaを見てもニュータウンに指定されていると思うのですが、他のニュータウンの歴史を見ると、先細りしていくなど、様々な問題が噴出しているようですが、これに対して流山市ではなにか対策を考えているのでしょうか。

A 市長

例えば、柏市の豊四季団地は約4500戸ありますが、2か月で約1万人が越してきました。いわゆる昔の公団住宅では、多摩ニュータウンよりも小さい2000～3000戸程度の規模でも、2～3歳程度しか変わらないような同じ世代の人が一斉に引っ越してくることで、子どもの小学校入学や、独り立ちのタイミングが重なり、様々な問題が起きています。

流山市ではそういった問題を認識していたので、年代に幅を出し、昔の公営住宅のような問題が生じないように取り組んできました。例えば、おおたかの森で最初に計画されたマンションは560戸程度の計画だったのですが、すべて同じような専有面積の部屋ではなく、色々なタイプの部屋を作るよう事業者をお願いしたところ、最終的には520戸程度となり、様々な世代、多様な方々が生活するようになりました。また、戸建住宅の分譲住宅についても同様に、できるだけ広くしていただくことで、同じような世代の方が固まってしまうということの無いように誘導してきました。

結果、約18年前からおおたかの森地区で入居が始まりましたが、現在もたくさんの住宅が建築中であり、年代の幅も出るように誘導したことで、昔の公団住宅のような、一斉入居、同様のライフステージという問題は生じにくくなっており、今後もそのような誘導は積極的に行っていきたいと考えています。また、TX沿線は非常に値段が高くなってきており、こういった点も、年代的な幅を持たせるといふ点の後押しになっていると思います。

2点目として、少子化等により、どこまで日本の人口が減るのかということがあります。

私は4年ほど前に、国の少子化対策検討委員会というところで色々とお話をさせていただきましたが、どの自治体も、人口減少により財政がどの程度厳しくなるのか見通しがついていない状況です。

「このレベルで出生率が止まるようにしよう」「人口が1億人を切らないようにしよう」といったような明確な基準が示されれば展望も見えてくるのですが、今の日本は、人口がどこまで減るのかという構想についてさっぱりです。しかも、アメリカなどでは、職業的に能力がある方などの移民を積極的に受け入れている一方、日本は移民にストップをかけています。つまり、日本は、労働力不足を問題視している一方で、具体的な解決策を示せていない状況と言えます。

現在の流山市は大丈夫ですが、私としてはやはり、国がしっかりと精査し、

教育を受け、職業能力を有し、財政基盤をしっかりと固められた方を受け入れていかないと、どこまでも少子高齢化が進んでしまうのではないかと危惧しています。

そのような中、流山市が日本全体の少子高齢化の波に飲み込まれないためには、ブランド戦略が必要であると考えています。首都圏や東京近郊に住むなら流山市が良いというブランドを確立することで、日本全体の少子高齢化の影響を大きく緩和することができます。

つまり、流山市として対策できることは、ブランド化や、世代的な幅を持たせるような開発を誘導するということであり、その一方で、国は人口施策を諦めてしまっているようですが、やるならしっかりと対策を講じるように強く主張していきたいと考えています。

Q 市民

年齢層の誘導というのはすごく難しそうだなという印象があるのですが、これはデベロッパーに年齢層のばらつきを出してくれと働きかけるようなことなのでしょうか。

A 市長

そうですね。流山市の開発事業の場合、最低41坪からという最低基準があるのですが、値段的にばらけさせて幅を持たせることで、年代的にも幅が出るようになっていきます。

Q 市民

確かに私の住んでいる周りでも、年齢的に幅があり、すごく魅力的だなと思いました

高齢の方の相続等で空きが出て、若い方が入ってきやすいということも働きかけの中に含まれているのでしょうか。

A 市長

しっかりとブランド化ができていると、ご高齢の方が売却した際に、すぐに若い方の買い手が見つかるのですが、こちらは実際に高齢の方からお礼の言葉をいただいたこともあります。

また、流山市では12～13年ほど前から、高齢者住み替え支援制度、高

高齢者住み替え相談という取り組みを実施しています。

江戸川台や初石、松ヶ丘地区などの50年ほど前に開発された戸建住宅街は敷地が広く、家が大きいのですが、子どもの独立やパートナーとの死別などにより、高齢者お一人やお二人になられた際、2階建て200平米といったような大きな家の中で1階のリビング部分だけで生活されているという方もいらっしゃるそうです。それに加え、駅やかかりつけ医院まで遠いなどの不便を感じている方も多く、そういった方への住み替え促進として、市では、ローン関係、行政書士や税理士への相談といったような相談ができる体制を整えています。空いた物件には若い世代の方が新たに入居することが多く、市としてはとても効果的な施策として位置付けています。

Q 市民

流山市が有名になることでブランディング化が進み、流山市の魅力が上がることが、市内全体の底上げにつながるということですね。

A 市長

そうですね。今までは通勤の利便性という観点からTX沿線が飛ぶように売れてきましたが、最近是在宅勤務される方も多くなっています。

そのような中、夫婦二人分のオフィスを構えつつ、子ども部屋を確保できるという江戸川台、初石、松ヶ丘地区の広い住環境に魅力を感じ、ゆったりと過ごせるという理由が決め手となり、同地区をお求めになる方もいらっしゃいます。

これから高齢の方が増えていくことに伴い、家の売却も年間1500件から2000件といったペースまで増えてくると思います。しかしながら、人口は減ってきたといっても、1都3県には約3600万人の人がいますので、その中の0.1%の方に、「流山市に住みたい」と思っただけならば、すべての家が埋まります。つまり、ブランディング戦略がしっかりと確立できれば当分の間、空地も少なく、地域経済も維持できる流山にできると考えています。

Q 市民

現在、柏の葉の方で、地域の方が意見を発して活動する「みんなの街づくりスタジオ」というプロジェクトに参加しており、11月3日にはマルシェ

コロールというイベントに参加する予定です。

流山市においても、おおたかの森で「森のマルシェ」などのイベントを行っていると思うのですが、今後、市民の方から声を上げ、こういったイベントを開催していくような仕組みづくりなどについて、考えていることはあるのでしょうか。

A 市長

すでに市民の方が主体となり行っている事業は多くあります。例えば、東神開発株式会社が管理する森のまち広場では、市のマーケティング課も一緒になり、実行委員会形式で森のマルシェなどの様々なイベントが開催されています。

また、市のホームページ上のブランディングサイトというセクションの中にNの研究室というものがあり、その中では「こういったものをやってみよう、研究していこう」といった意見が飛び交っています。例えば最近では、流山市が愛され、ずっと住み続けてもらえるようになるためにも、こういったことでできればいいなという提案を市長に伝えようという取り組みがあり、近日、懇談会を行う予定となっております。

現在、柏の葉でも活動されているということですので、ぜひ、柏の葉ではできないようなイベントを流山市で開催できるよう、マーケティング課を通じてご提案いただきたいと思います。

Q 市民

お店の方で子ども店長というのをやってみたいと考えています。

市内の子どもたちがアフタースクールのような形でふらっとお店に立ち寄り、仕事を体験でき、色々と調整は必要となりますが、お礼におおたかの森S・Cで使えるポイントカードへのチャージできるというような構想です。

やはり、子育てのまちということで、子どもたちが好きな時に好きな職業体験ができ、やりたいことができるまちというのは素敵だと思いますし、このような光景は住んでいる方からしても、気持ち良く思ってもらえると思うので、ぜひ実現できたらいいなと思います。

A 市長

素敵なお話だと思います。お仕事は柏の葉でされているとのことですが、

ぜひ、流山市民として流山市にもお力を貸していただければ幸いです。

Q 市民

はい、ぜひお願いします。

話は変わるのですが、長野県の方に「富士見森のオフィス」というものがあり、これは主にシェアワーキングスペースになるのですが、ジョブマッチングや、八ヶ岳の近くという立地を活かしたキャンプなどもできる大人たちの交流の場となっています。そこでは、ペットボトルを無くして地元の酒屋から仕入れたり、エコチャージ制度を導入するといったような、ごみを出さない仕組みづくりなどにも取り組んでいます。

おおたかの森S・CのFLAPSでもサステナブルウィークなど様々な取り組み行っていますが、こういったイベントも続けつつ、常設されたワークスペースを確保できるとよいと思うのですが、シェアワーキングスペースなどを作っていく予定はあるのでしょうか。

A 市長

自分だけでなく、他の方々も含めて、流山で働ける仕組みを作りたいということで、6年ほどまえに南流山にシェアワーキングスペースを作った方がいらっしゃいました。また、今はすでに無くなってしまったと聞いていますが、おおたかの森の北口に民間のワーキングスペースがありました。

民間のスペースを借りて行うということになると、かなりのコストがかかり、以前、柏の葉のワーキングスペースのことでお話を伺う機会があったのですが、赤字状態であり、営業費、広告費として割り切っていると聞いたことがあります。

流山市の場合は生涯学習センターがありますので、そういったところをうまく使えるようにしていくとともに、新しいものを作る場合でも、「こういったものが必要だ」というビジネスプランに対し、それを実現できるように行政として後押しするということが現実的であると考えています。

生涯学習センターの中にある市民活動推進センターでも市民と市民、市民と企業、市民と行政、企業と行政を結びつける取り組みをととても意欲的に行ってくれていますので、これからとても面白いことが始められるのではないかと思います。

Q 市民

ありがとうございます。

これは流山市に住んでいて興味が出てきた話なのですが、現在、人口が増加しており、小学校がマンモス校となっていますが、今後中学校や高校を新しく作っていくという考えはあるのでしょうか。

A 市長

南流山地区では、現在、南流山小学校の隣に南流山中学校がありますが、この中学校を東洋学園大学の跡地に移すことで、規模がかなり拡大される予定であり、こちらは令和6年度春の開校に向けて準備を進めているところです。

また、今後も小学生が増えて、一部の中学校を増築していかないといけないという推計が出ていますので、この他の対策についてもすでに検討を始めているところです。

高校は、流山市ではなく千葉県が運営しているため、推測の話となりますが、子どもの減少に伴い定員数が縮小され続けてきている中、流山市内の小中学生が急増しているという事実がありますので、千葉県北西部の高校は定員数を増やしていくという方向に舵を切るのではないかと思います。

Q 市民

先ほど街中のごみが気になるという意見もありましたが、柏の葉では月に1度、市民が集まって清掃活動を行っています。おおたかの森ではそのような活動は行われているのでしょうか。

A 市長

おおたかの森南口の森のまち広場では、管理している東神開発株式会社が毎日清掃を行っています。また、南口のショッピングセンターの近く、東武鉄道脇などは、自治会の方々が定期的に清掃してくれています。

おおたかの森周辺ではないのですが、住民の方がボランティアで掃除をしているところも多く、実は本日、流山FCというサッカーチームの方を中心に、市内全域の清掃活動を行うということで、市役所の前に集まっているのを登庁時に見かけました。

Q 市民

森のまち広場でも様々な取り組みを行っていただきありがとうございます。

今後、ポートランドのブロックパーティーでは、自分の作ってきた料理を広げてシェアするように、森のまち広場でラフな感じに市民同士の交流ができるような光景が広がるいいなと思います。

A 市長

自由にというよりは、マーケティング課を通じて、イベントとして開催したいと思いますので、ぜひ、柏の葉に提案するよりも先に、アイデアをマーケティング課に共有いただければ幸いです。

Q 市民

今のお話に出てきました子ども店長の件なのですが、実はNの研究室の方々と、私のお店で進めてみてはという話が進んでいるところですので、ぜひ参加していただけないでしょうか。

Q 市民

ぜひ、後ほど詳しいお話を伺わせてください。

A 市長

本日は、このような有意義なお話ができ非常に楽しかったです。また、若い世代の方が流山市に興味を持ってくれ参加してくれたこともとても嬉しく思います。

昔はどこに住んでいるのと聞かれたときに、「松戸の方」とか「柏の近く」と言われていたのですが、最近は自信をもって「流山市に住んでいる」と言っていたできるようになりました。

Q 市民

本日はおおたかの森と柏の葉の話があがっていましたが、今後、流山市と柏の葉が連携して何かを進めていくといったお話はあるのでしょうか。

A 市長

ずっと昔に、柏の葉のとある企業からお話をいただいたことがあります。

今はありません。

現状は、お互いの個性を活かして良きライバルとしてT X沿線を盛り上げているところですが、双方に、あるいはT X沿線のブランド力向上に役立つということであれば、もちろん一緒にやっていきたいと思います。

Q 市民

柏の葉の現場の店長さん達などは、一緒に実施するイベント等を切に願っていると思いますので、ぜひ一緒にできたらいいなと思います。

A 市長

ぜひ何か情報がありましたらマーケティング課までご連絡いただければ幸いです。

頂いたご提案についてはしっかりと検討・対策を行い、より一層、きれいで楽しい流山市にしていきたいと思いますので、これからもご意見を伺わせてください。